

2017年、世界最高峰の演劇の祭典「アヴィニオン演劇祭」のオープニングを飾り、絶賛された

宮城聡×SPACの代表作『アンティゴネ』

今秋の「Japan2019」ニューヨーク公演を経て、2020年5月、静岡に凱旋！

東京2020 NIPPON フェスティバル共催プログラムに採択

去る7月、宮城聡×SPACの代表作『アンティゴネ』は、東京2020 NIPPON フェスティバル共催プログラムに採択され、2020年5月、静岡市内駿府城公園にて上演されることが決定しました。

『アンティゴネ』は、2017年、世界最高峰の演劇の祭典「アヴィニオン演劇祭」からの招聘を受け、製作されました。静岡市・駿府城公園での「ふじのくに野外芸術フェスタ2017」にて、アヴィニオン演劇祭の約1/3サイズの舞台でプレ公演を行った後、同年7月、同演劇祭のオープニング作品として、メイン会場「アヴィニオン法王庁中庭」にて上演。アジアの劇団がオープニングを飾るのは、71年間の演劇祭史上初めてのことで、幅40m・奥行15mの巨大な舞台に水を張る創意に富んだ装置や、高さ30mの法王庁の壁面に俳優の影を映し出す仕掛け、そして人を善悪に二分しない王女アンティゴネの思想に日本人の死生観を重ねた演出は、大きな反響を呼びました。

本作は、今月25日から10月6日まで「Japan 2019」の公式企画として、ニューヨークで上演されます。会場は、かつての軍事施設であり、現在は世界の名だたるアーティストがライブやインスタレーション等を行う革新的な文化施設「パーク・アベニュー・アーモリー」。ドーム型の高い天井と広々とした空間を誇る「ウェイド・トムソン・ドリル・ホール」に、アヴィニオン法王庁中庭での上演時とほぼ同じ規模の水を張った舞台、1,000席の客席を設え、壁面に俳優の影を映し出す演出も再現します。

2020年5月の静岡での凱旋公演も、アヴィニオンの規模にせまる劇空間になる予定です。

『アンティゴネ』 Japan2019 ニューヨーク公演

構成・演出：宮城聡 / 作：ソポクレス / 訳：柳沼重剛 / 音楽：棚川寛子 / 空間構成：木津潤平

衣裳デザイン：高橋佳代 / 照明デザイン：大迫浩二 / ヘアメイク：梶田キョウコ

出演：SPAC / 美加理、本多麻紀、赤松直美、阿部一徳、石井萌水、大内米治、大高浩一、加藤幸夫、貴島豪、小長谷勝彦

榊原有美、桜内結う、佐藤ゆず、鈴木真理子、大道無門優也、武石守正、館野百代、寺内亜矢子、永井健二

野口俊丞、布施安寿香、三島景太、宮城嶋遥加、森山冬子、山本実幸、吉植荘一郎、吉見亮、若菜大輔、渡辺敬彦

■公演日：[一般公演]2019年9月25日、26日、27日、28日、29日、30日、10月3日、4日、5日、6日(6日は1日2公演)

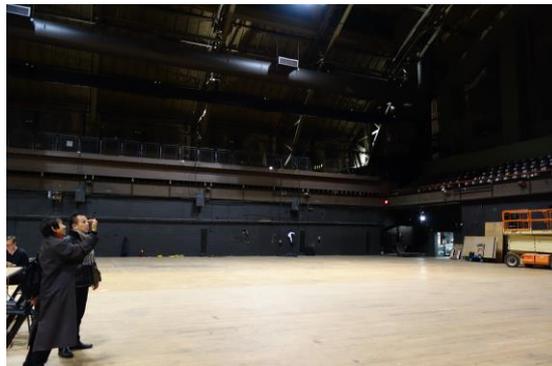
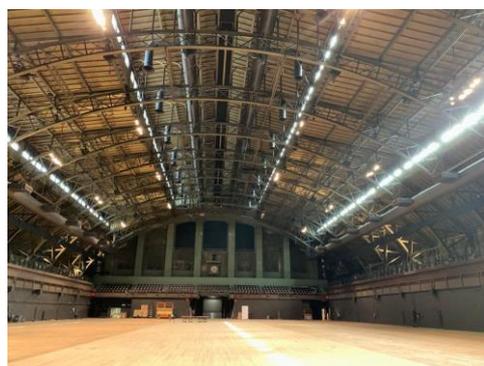
[鑑賞事業公演]2019年10月2日

■公演数：[一般公演]全11回 [鑑賞事業公演]全1回

■会場：パーク・アベニュー・アーモリー <http://www.armoryonpark.org/>

主催：国際交流基金、SPAC・静岡県舞台芸術センター、パーク・アベニュー・アーモリー

協賛：ANA



パーク・アベニュー・アーモリー
「ドリル・ホール」

[東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム]

ふじのくに野外芸術フェスタ2020静岡 宮城聰演出SPAC公演

『アンティゴネ』

構成・演出:宮城聰 / 作:ソポクレス / 訳:柳沼重剛 / 音楽:棚川寛子 / 空間構成:木津潤平

衣裳デザイン:高橋佳代 / 照明デザイン:大迫浩二 / ヘアメイク:梶田キョウコ / 出演:SPAC

■公演日:2020年5月2日~5日[予定]

■会場:駿府城公園 紅葉山庭園前広場特設会場

東京2020 NIPPONフェスティバル とは

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典だけではなく、文化の祭典でもあります。東京2020組織委員会は、東京2020参画プログラムの集大成として、2020年4月から大会に向けた機運を最大化し、国内外へ日本の様々な文化をPRするため、「東京2020 NIPPONフェスティバル」を展開します。「東京2020 NIPPONフェスティバル」は、世界の注目が日本・東京に集まる2020年4月頃から9月にかけて実施される、東京2020大会の公式文化プログラムです。日本の誇る文化を国内外に強く発信すると共に、共生社会の実現を目指して多様な人々の参加や交流を生み出すことや、文化・芸術活動を通して多くの人々が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、大会に向け期待感を高めることを目的としています。

★東京2020 NIPPONフェスティバル 特設ページ...<https://tokyo2020.org/jp/special/festival/>

東京2020
NIPPON
フェスティバル

2017年アヴィニオン演劇祭での公演の際の現地での劇評

●「ル・モンド」紙 2017.7.8

2014年、ブルボン石切り場で上演した『マハーバーラタ』で人々を魅了した「美」。我々は法王庁に、あの「美」を再び見出した。

2017年アヴィニオン演劇祭での公演の際の観客のコメント

●フランソワーズ・ニセン氏 (フランス文化大臣)

昨日の公演は衝撃でした。本当に。何と言っても「時間」という概念の捉え方ですね。物事はどのように移り変わってゆくのか。あの演出の肝はやはり「時間」をどう扱うかという点にあって、それにあの水と衣裳と...とにかく圧倒されました。全く新しい『アンティゴネ』の在り方に目を開かれたという気持ちです。過ぎ去った時間を眺めて...今の私たちに必要なことだと思います。

●ルイ・シュヴァイツァー氏 (元ルノー自動車会長兼CEO・アヴィニオン演劇祭理事長)

ブルボン石切り場での『マハーバーラタ』に続き、法王庁でこれほどの舞台はなかなか観ていません。

●オリヴィエ・ピイ氏 (劇作家、演出家、俳優、アヴィニオン演劇祭ディレクター)

偉大な芸術であると同時に誰をも楽しませる。それが我々の考える「民衆演劇」で、宮城聰さんは期待にこたえてくれた。権威あるギリシア悲劇の専門家が、ダンスや音楽に合唱(コロス)をまじえた今回の上演は古代の上演イメージに最も近いと評していた。難しい空間を模範的に使っていたと思う。



©Christophe Raynaud de Lage



©ATARASHI Ryota

2017年、アヴィニオン法王庁中庭での上演

宮城聰演出SPAC公演『アンティゴネ』に関するお問い合わせや取材のご希望は、

「SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 内田」までご連絡下さい。

Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:uchida@spac.or.jp